

成功者と比べて「当たり前」の基準」が低い

という要因も考えられます。

私たちは生まれた当初、おそらくすべてのことが「当たり前」ではありません。生きていくうえで、様々なことを学び、幾度となく壁にぶつかり、苦しみ、時には泣き、それでも逃げることができず、何度も何度も繰り返し、見て、聞いて、体験し、慣れていくことで、自分の中の「当たり前」や「常識」と言うパワーワードに折り合いをつけることができていくのです。

ただ、人はある時期から、その壁にぶつかることや、苦しむことを避け、「当たり前」の水準を向上させようとしなくなります。子供の頃は、一人前になるために、あるいは学ぶことから逃げられないために、大人の監視のもと、教育や体験の過程で否応なく「当たり前」を向上させることができました。ですが、思春期あたりの年齢を境に、大人との接し方が変わっていく中で

「当たり前」が停滞する人と「当たり前」を広げていく人に大きく分かれていってしまいます。